

航空宇宙特集の発刊に際して

執行役員
民間機セグメント長 兼
名古屋航空宇宙システム
製作所長

廣瀬 圭介
Keisuke Hirose



航空宇宙特集の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当社は今年4月1日付で航空・防衛・宇宙ドメインを発足させ、その下に防衛・宇宙セグメントと民間機セグメント、MRJ事業部を設ける新体制をスタートさせました。

民間機市場は、今後20年間で新規納入機体の販売額で約5兆ドル、納入機数で約3万5千機(年間納入機数ベースで1.4倍)と伸張が期待されています。

こうした旺盛な需要を受け、低コスト設計・製造技術、軽量化や先進空力設計による低燃費の実現、低騒音・低エミッションによる環境負荷低減など、ライフサイクル全般にわたる様々な技術課題に応えることが求められています。これらの社会の要請を踏まえ、当社グループでは、航空機の国際共同開発・製造事業、民間航空機用エンジン事業、次世代リージョナルジェット機MRJの開発などを通じて、グローバルな航空輸送インフラの構築に貢献しています。

本号では、これらの事業を支える製品及び技術の中から、現在開発中のMRJに関して、型式証明に必要な技術データ取得のために米国ワシントン州モーゼスレイク空港にて実施している飛行試験と今年6月にパリで開催された世界的な航空ショーにおける飛行試験機の地上展示について紹介します。また、MRJに搭載するPW1200Gエンジンの技術的な特徴や開発・量産準備等の取り組みについて紹介します。PW1200Gは、三菱重工航空エンジン(株)で製造・組立及び試験を行う予定であり、国内では初めての旅客機用エンジンの最終組立となります。

大型民間機につきましては、生産変動等に迅速に対応することを目的として、柔軟な生産と省人化を可能にする自動化設備を組込んだ新開発の胴体パネル混流製造ラインについて紹介します。

また、航空宇宙機器の構造材として用いられる複合材に関しては、長期間運用により吸湿した後の強度、剛性低下を部品開発時に評価するために試験用部材を短時間で吸湿させる手法と、複合材製品の品質を担保するために必要とされる非破壊検査を、より高精度かつ高効率に行うために開発・適用を推進している最新技術について紹介します。

これからも私どもの活動に対し、ご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。